FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C100107

21名の新規入職者を迎えました 01

2021年度は初期研修医2名、薬剤師1名、臨床検査技師1名、看護師17名、助産師2名、介護福祉士1名の総勢21名が入職しました。

4月1日の入職式に引続き、新規入職者を対象とした研修を3日間行いました。

今年は新型コロナウイルス感染予防の観点から、入職する2週間前から検温と体調管理に注力しており、研修中も継続しました。

また、例年5日間の研修を3日間に集約し、研修項目を絞っての開催となりました。研修項目は、社会人そして医療人としての心構え、電子カルテシステムの基本的な操作方法をはじめ、保険診療や感染対策、医療安全といった病院で働く上で必要な知識を学びました。

また、一人暮らしを始める職員も多いことから、昭和警察署の方にご指導いただき防犯意識を醸成する機会となりました。

現在は、配属先の部署にて早く業務を覚えようと日々研鑽しています。昨今の逼迫した医療情勢の中で自ら医療職を選択した者たちです。今後とも、彼らの成長を温かく見守っていただけますと幸いです。

▲消火訓練の様子

総務課 広報係　鈴木 悠太

骨粗鬆症ミニレクチャー・オンライン講座の配信開始!! 02

当院では、骨粗鬆症の各分野の専門家である骨粗鬆症リエゾンチームが、皆様の骨の健康をサポートするべく様々な活動をしています。毎週月曜日に開催していました骨粗鬆症ミニレクチャーもその一環でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、休止せざるを得ない状況が続いています。そこで昨年10月より、ミニレクチャーでお話していた内容を15分程度の動画にまとめ、オンライン講座として配信を開始いたしました。現在のところ、「骨粗鬆症検診編」「骨粗鬆症予防の運動 基礎編・実践編①・実践編②」「骨を強くする栄養 カルシウムチェック編」の5本を公開しています。また近日中に「骨粗鬆症ってどんな病気？」「骨粗鬆症のお薬」「骨を強くする栄養 講義編」の3本を追加する予定です。コロナ禍で外出する機会が減り、骨の健康にとっては好ましくない状態が続いております。是非ともこちらのオンライン講座をご覧いただき、皆様の健康維持にお役立てください。

放射線技術科 副技師長　米澤 伸哉

動画掲載箇所　トップページ＞聖霊病院について＞情報公開＞各種教室・講座のご案内
URL：https://www.seirei-hospital.org/aboutus/johokokai/

2022年4月新卒採用情報 03

▶助産師　▶看護師
▶薬剤師　▶作業療法士

詳細は当院ホームページの採用情報をご覧ください。
私たちの医療チームで一緒に社会貢献しませんか？

お問い合わせ先
聖霊病院　人事課　TEL：052-832-1181㈹

新任医師紹介 04

はじめまして。４月から皮膚科に赴任しました長村美佳です。『おさむら』と読みますので、ご周知いただけますと嬉しいです。育休明けで新天地へ異動になり、まだまだ不慣れな点・勘が取り戻せていない部分が多く、皆さまにご迷惑をおかけすることもあるかと思います…。精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

皮膚科　長村 美佳

聖風（せいふう） 13

2021.5 月号
発行責任者／院長 春原晶代　●編集／総務課 広報係

社会福祉法人聖霊会
聖霊病院 HOLY SPIRIT HOSPITAL
〒466-8633 名古屋市昭和区川名山町56番地
Tel：052-832-1181
https://www.seirei-hospital.org/

愛知県 江南市 曼陀羅寺｜写真提供：用度課課長　幾田 和男

院長メッセージ

Massage of the hospital superintendent

病院長
春原 晶代

新年度のご挨拶

4月から新入職員20数名を迎え、新しい年度が始まりました。彼らの初々しい姿を見て、私も新たな気持ちで、病院運営にあたっていきたいと感じました。今回は地域包括ケア病棟の特集です。地域多機能型ハブ病院という当院の役割を代表する病棟であり、患者さんがこの地域で暮らし続けることを支えるために必要な病棟です。

今も新型コロナ感染が落ち着かず、病院は緊張状態が続いています。こんな時こそ、「和顔愛語」をモットーに患者さんにやさしい病院でありたいと思っています。

HOT NEWS 新副院長就任のご挨拶

4月より副院長として就任いたしました。聖霊病院は私が医師になりたての頃(40年前)から医療者、患者さんの双方からとても評価の高い病院でした。この格式と伝統のある当院に迎えて頂けたことを大変嬉しく思っております。

前任地の名古屋第二赤十字病院では約25年間、ほぼ毎日手術室に入って、4000件以上の心臓手術を手掛けてきました。最後の5年間は管理的な立場(副院長)となり、主に地域医療連携と経営戦略と医療技術部門を担当しました。おかげで診療現場と病院管理者の双方の立場が理解できるようになり、またメディカルスタッフの思いも知ることができました。いま、どの病院も運営は非常に難しい局面にあると思います。先行きの不透明感が皆さんを不安にさせているかもしれません。微力ながらこれまでの経験を生かして、様々な課題に対し当院の良い風土を守りながら職員の皆さんがより気持ちよく働けるようお手伝いができればと思っております。

副院長
心臓外科
田嶋 一喜

病院から在宅への「架け橋」

地域医療連携 チーム

地域包括ケア病棟について 新組織体制の紹介

入院された患者さんが安心して在宅または施設へ退院できるよう、スタッフ一同日々ケアに当たっています。

地域包括ケア病棟って何？と思われる方も多いかと思いますので、当院の地域包括ケア病棟の紹介をさせて頂きます。

地域包括ケア病棟とは…

1 急性期病床からの受け入れ（ポストアキュート）
2 在宅等にいる患者の緊急時の受け入れ（サブアキュート）
3 在宅への復帰支援

この３つの機能を持っています。そして、大前提は、在宅復帰を可能にすることです。

急性期の治療を終え、当病棟に入院された患者さんが安心して在宅または施設へ退院できるよう、スタッフ一同日々ケアに当たっております。認知機能や日常生活動作の維持や向上、少しでも楽しく入院生活を送って頂けるよう、病棟でのレクレーションも実施しております。また、医師・看護師だけでなく、薬剤師・栄養士・リハビリスタッフ・社会福祉士・介護福祉士が一丸となり、支援をさせて頂いております。病院から在宅への「架け橋」となって在宅に向けての支援をさせていただいております。

▲地域包括ケア病棟に携わる職員
※写真撮影時のみマスクを外しています

また、今回ご寄稿いただいた「ゆめの葉」さんをはじめとする訪問看護ステーション、市区町村、保健所といった院外の様々な施設とも連携をとりながら患者さんごとに異なる生活環境に即した対応ができるよう努めております。

患者さんの笑顔が私たちスタッフのやりがいにもつながっています。今後とも、聖霊病院地域包括ケア病棟をよろしくお願い致します。

７階病棟（地域包括ケア病棟）
看護師長
中島 優子

地域包括ケア病棟の目指すところ

2025年は団塊世代が75歳以上を迎える年で、医療と介護の需要が一層高まると予想されます。ひとりひとりの病態や生活実態に合った、良質で安全な医療や介護が受けられることを目指して、当院の理念である「愛と奉仕」の精神をもって日々の診療や看護、リハビリ指導、介護、退院支援に取り組んでいます。患者さんとご家族のお気持ちを聴きながら多職種間で情報共有し、退院後の目標に向けたリハビリを実施していただいています。

リハビリを安定して行えるよう、診療と看護の継続はもとより、栄養サポートや認知症ケアの専門チームも加わり、リハビリ成果の向上に努めています。

退院支援においては患者さん・ご家族と関連施設との連絡調整が最も難しいと感じています。なぜなら、様々な価値観や社会背景をお持ちの方がいらっしゃるからです。

当院では患者さん・ご家族と共に安心して幸せにお過ごしいただけるよう、時間をかけ心細やかにお話を伺うよう努めており、これに関わる素敵なスタッフらが日々奮闘しています。

７階病棟（地域包括ケア病棟）管理部長
内科医長
後藤 麻友子

地域医療連携 取り組み

在宅復帰への支援について 訪問看護ステーション「ゆめの葉」

「ゆめの葉」は、ご自宅での生活が無事に送れるよう入院中から話し合いをし、退院に向けての準備をしております。

▲退院支援カンファレンスの様子
※写真掲載には同意を得ています

皆さま、こんにちは！「訪問看護ステーションゆめの葉」の篠原と申します。「ゆめの葉」は、ご自宅での生活が無事に送れるよう入院中から話し合いをし、退院に向けての準備をしております。現在は、0歳～105歳の皆様を、看護師11名、理学療法士2名、言語聴覚士3名、事務員6名が365日24時間サポートしております。

聖霊病院を退院すると病院との縁が途切れてしまいなかなか病院へは戻れないと誤解している方もみえますが、決してそうではありません。入院中からお世話になった医師や看護師、地域包括ケア職員、退院支援の皆さんと退院後も連絡を取り合っております。ご自宅に帰った時の看護師は「ゆめの葉」の看護師になりますが、聖霊病院の看護師さんとは引き続き連絡を取り合い報告もしております。同様に、聖霊病院の医師とご自宅での医師も連絡を取り合っております。ですから、万一体調が悪くなり入院が必要な場合は、スムーズに入院することができます。

今後も、訪問看護師が病院に出向き医療従事者と顔合わせをして、退院に向けての話し合いを行い準備することで、より安心してご自宅で過ごすことができるよう努力して参りますので、
どうぞ宜しくお願い致します。

訪問看護ステーションゆめの葉
株式会社栖のき　代表取締役
篠原 ひろみ

住み慣れた地域に戻れるよう連携を図っております。

地域医療連携センター 患者支援室
退院支援看護師　近藤 豊美

私は退院支援看護師として、入院当初から退院後の生活を見据え、患者さんとご家族を生活者として捉え、その人らしく暮らせるよう日々心掛けております。

入院を機に、日常の生活動作が低下したり、医療処置が必要になった場合等、退院に不安を感じてしまう患者さんが多いです。そのため、私たちは在宅医師、訪問看護師、ケアマネージャー、施設職員等、病院内外の多職種の皆さんと情報共有を密に行い、安心して住み慣れた地域に戻れるよう連携を図っております。

社会福祉の立場からサポートさせて頂きます。

地域医療連携センター 医療福祉相談室
医療ソーシャルワーカー　一尾 咲

私は医療ソーシャルワーカー（MSW）として、在宅や施設等での生活をその人らしく安心して送ることができるように、患者さんやご家族を社会福祉の立場からサポートさせて頂きます。さまざまな社会資源の活用、また経済的な問題でお困りの方の相談等、患者さんやご家族と一緒に取り組み、最も良い解決法がみつかるように寄り添った支援を心がけております。多職種、他機関とも連携を図りながら、より良い支援を目指して日々励んでおります。